

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

(令和4年度人間科学部作業療法学科)

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

| 学部・学科等の名称 | 専任教員数 | | | | | | | | 非常勤教員 | 専任教員一人あたりの在籍学生数 | 備考 |
|-----------------|-------|-----|----|----|----|-----|-----------------|----|-------|-----------------|----|
| | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 | 基準数 | うち理学療法士又は作業療法士数 | 助手 | | | |
| 人間科学部 作業療法学科 | 6人 | 0人 | 3人 | 0人 | 9人 | 0人 | 7人 | 0人 | 20人 | 15.9人 | |
| 計 | 6人 | 0人 | 3人 | 0人 | 9人 | 0人 | 7人 | 0人 | 20人 | — | |

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|-----------------------|---|----|
| <input type="radio"/> | 理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。 | 3 |
| | 理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。 | 2 |
| | 理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。 | 1 |

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|-----------------------|---|----|
| <input type="radio"/> | 全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。 | 4 |
| | 9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。 | 3 |
| | 8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容(講義)を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。 | 2 |
| | 上記以外である。 | 1 |

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|--|----|
| ○ | 専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。 | 3 |
| | 専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。 | 2 |
| | 専任教員(理学療法士又は作業療法士)は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。 | 1 |

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

| 分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門) | 指定規則 教育内容 | 相当授業 科目名 | 担当 コマ 数 | 担当教員 | |
|----------------------------|----------------------------|-------------|---------------|--------------------------|---------------|
| | | | | 氏名 | 職名 (専任・兼任) |
| 基礎 | 科学的思考の基礎 人間と社会 社会の理解 | 文章表現 | 15 | 矢部玲子 | 兼任 |
| | | 心理学概論 | 15 | 石垣則昭 | 兼任 |
| | | 食生活論 | 15 | 荒井三津子 | 兼任 |
| | | 生活と社会環境 | 15 | 今泉博文 金子翔拓 | 兼任 |
| | | 総合教養講座 | 15 | 白戸力弥 渡部敏弘 大森圭 松岡審爾 小塚美由紀 | 専任及び兼任 |
| | | 日本国憲法 | 15 | 池田杏奈 | 兼任 |
| | | 現代医療と福祉・介護 | 15 | 今泉博文 | 兼任 |
| | | キャリア入門 | 8 | 木村悠里菜 | 兼任 |
| | | キャリアビジョン | 8 | 金子翔拓 | 専任 |
| | | キャリア形成 | 8 | 木村悠里菜 | 兼任 |
| | | 生命科学 | 15 | 荒井克俊 | 兼任 |
| | | 情報処理 | 15 | 松岡審爾 | 専任 |
| | | 統計の基礎 | 15 | 武田裕康 | 兼任 |
| | | 物理学 | 15 | 松岡審爾 | 専任 |
| 基礎化学 | 15 | 藤井駿吾 | 兼任 | | |

| | | | | | |
|------|-----------------|---------------------|-----------|-----------------------|-----------|
| | | 英語Ⅰ | 15 | Deepak K Samida | 兼任 |
| | | 英語Ⅱ | 15 | 相馬哲也 | 兼任 |
| | | 中国語Ⅰ | 15 | 野間晃 | 兼任 |
| | | 生涯スポーツⅠ | 15 | 平岡英樹 | 兼任 |
| | | 生涯スポーツⅡ | 15 | 平岡英樹 | 兼任 |
| 専門基礎 | 人間の構造と機能及び心身の発達 | 人間発達学 | 15 | 横井裕一郎 | 専任 |
| | | 解剖学Ⅰ | 15 | 木村一志 白幡智尋 | 専任及び兼任 |
| | | 解剖学Ⅱ | 15 | 白幡智尋 | 兼任 |
| | | 解剖学Ⅲ | 8 | 金子翔拓 白戸力弥 玉珍 | 専任 |
| | | 生理学Ⅰ | 15 | 木村一志 侘美靖 | 専任及び兼任 |
| | | 生理学Ⅱ | 15 | 木村一志 | 専任 |
| | | 生理学実習 | 8 | 木村一志 柴田恵理子 | 専任 |
| | | 運動学Ⅰ | 15 | 高田雄一 金子翔拓 | 専任及び兼任 |
| | | 運動学Ⅱ | 15 | 大森圭 橋田浩 金子翔拓 | 専任及び兼任 |
| | | 運動学実習 | 12 | 大森圭 橋田浩 | 専任 |
| | | リハビリテーション工学 | 8 | 金谷匡紘 梅田信吾 佐藤美由紀 田中栄一 | 兼任及び非常勤講師 |
| | | 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 | 病理学 | 15 | 瀧山晃弘 |
| | 微生物・免疫学 | | 8 | 木村一志 績佳代 | 専任及び兼任 |
| | 終末期医療 | | 8 | 佐藤明紀 | 専任 |
| | 内科学 | | 15 | 水越常德 林貴士 松谷学 明石浩史 汐谷優 | 非常勤講師 |
| | 整形外科 | | 15 | 田邊芳恵 | 専任 |
| | 脳神経内科学 | | 15 | 松谷学 林貴士 | 非常勤講師 |
| | 小児科学 | | 8 | 石黒信久 | 非常勤講師 |
| | 精神医学Ⅰ | | 15 | 瀧山晃弘 | 兼任 |
| | 精神医学Ⅱ | | 15 | 瀧山晃弘 | 兼任 |
| | リハビリテーション医学 | | 8 | 橋内勇 村上優衣 | 専任及び兼任 |
| | 老年医学 | | 8 | 瀧山晃弘 佐々木幸子 辻美幸 績佳代 | 専任及び兼任 |
| | リハビリテーション障害学 | 8 | 金子翔拓 田邊芳恵 | 専任及び兼任 | |

| | | | | | | |
|------------|---------------------|--------------|-------------|---------------------------------|----------------|-----------|
| | | 臨床心理学 | 8 | 松岡 紘史 | 非常勤講師 | |
| | | リハビリテーション栄養学 | 8 | 佐々木将太 | 兼任 | |
| | | 臨床薬理学 | 8 | 纘佳代 | 兼任 | |
| | | 救急医学 | 8 | 俵敏弘 高橋信行 | 非常勤講師 | |
| | | 言語障害治療学 | 8 | 金浜悦子 | 非常勤講師 | |
| | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 | 医学概論 | 8 | 田邊芳恵 | 専任 | |
| | | リハビリテーション概論 | 8 | 渡辺明日香 牧野均 | 専任及び兼任 | |
| | | 公衆衛生学 | 8 | 佐々木幸子 | 専任 | |
| | | 地域包括ケアシステム論 | 8 | 水本淳 | 専任 | |
| | | 統計と社会調査法 | 15 | 小田史郎 | 非常勤講師 | |
| | | チーム医療概論 | 8 | 佐藤明紀 金谷匡紘 鹿内あずさ 纘佳代 | 専任及び兼任 | |
| | 専門 | 基礎作業療法学 | 作業療法概論 | 15 | 大川浩子 渡辺明日香 金京室 | 専任 |
| | | | 基礎作業学 | 15 | 渡辺明日香 白戸力弥 | 専任 |
| | | | 作業分析学実習Ⅰ | 15 | 渡辺明日香 金京室 田村健 | 専任及び非常勤講師 |
| | | | コミュニケーション技法 | 15 | 渡辺明日香 小澤裕子 | 専任及び非常勤講師 |
| 作業分析学実習Ⅱ | | | 15 | 金京室 渡辺明日香 佐々木修一 白戸力弥 | 専任及び非常勤講師 | |
| 作業療法研究法 | | | 15 | 大川浩子 金谷匡紘 | 専任 | |
| 作業療法研究法演習Ⅰ | | | 15 | 金子翔拓 大川浩子 白戸力弥 金谷匡紘 玉珍 村上優衣 金京室 | 専任 | |
| 作業療法研究法演習Ⅱ | | | 15 | 金子翔拓 大川浩子 白戸力弥 金谷匡紘 玉珍 村上優衣 金京室 | 専任 | |
| 作業療法管理学 | | 作業療法管理運営・法規 | 15 | 大川浩子 | 専任 | |
| 作業療法評価学 | | 作業療法評価学 | 15 | 金子翔拓 大川浩子 金谷匡紘 村上優衣 | 専任 | |

| | | | | |
|---------|-------------------------------|----|---|---------------|
| | 作業療法評価学 演習 | 15 | 金子翔拓 大川浩子 | 専任 |
| | 作業療法評価学 実習 I | 12 | 金子翔拓 白戸力弥 金谷 匡紘 村上優衣 金京室 | 専任 |
| | 作業療法評価学 実習 II | 15 | 金子翔拓 大川浩子 白戸 力弥 金谷匡紘 玉珍 村上 優衣 金京室 | 専任 |
| 作業療法治療学 | 機能活動代償学 I | 8 | 村上優衣 | 専任 |
| | 機能活動代償学 II | 8 | 白戸力弥 | 専任 |
| | 中枢神経障作業 療法学 | 8 | 金谷匡紘 | 専任 |
| | 内部障害作業療 法学 | 15 | 金谷匡紘 森野陽 佐藤明 紀 | 専任及び非常 勤講師 |
| | 身体障害作業療 法治療学特論 I (運動器) | 8 | 金子翔拓 | 専任 |
| | 身体障害作業療 法治療学特論 II (中枢系) | 8 | 金谷匡紘 金京室 | 専任 |
| | 身体障害作業療 法治療学実習 | 15 | 白戸力弥 金谷匡紘 玉珍 村上優衣 金京室 金子翔 拓 | 専任 |
| | 高次脳機能障害 作業療法治療学 | 8 | 村上優衣 | 専任 |
| | 高次脳機能障害 作業療法治療学 演習 | 15 | 村上優衣 | 専任 |
| | 発達障害作業療 法治療学 | 15 | 小玉武志 | 非常勤講師 |
| | 発達障害作業療 法治療学演習 | 15 | 小玉武志 | 非常勤講師 |
| | 精神障害作業療 法治療学 | 15 | 大川浩子 | 専任 |
| | 精神障害作業療 法治療学演習 | 15 | 大川浩子 | 専任 |

| | | | | |
|---------|---------------|-----|---------------------------------------|--------|
| | 精神障害作業療法治療学特論 | 8 | 大川浩子 | 専任 |
| | 高齢期作業療法治療学 | 15 | 玉珍 | 専任 |
| | 高齢期作業療法治療学演習 | 15 | 玉珍 | 専任 |
| | 生活行為向上作業療法学 | 8 | 金谷匡紘 | 専任 |
| | 日常生活適応学演習 | 15 | 玉珍 金谷匡紘 | 専任 |
| | 作業療法総合セミナーⅠ | 15 | 金子翔拓 大川浩子 白戸力弥 金谷匡紘 玉珍 村上優衣 金京室 渡辺明日香 | 専任 |
| | 作業療法総合セミナーⅡ | 15 | 金子翔拓 瀧山晃弘 侘美靖 | 専任及び兼任 |
| 地域作業療法学 | 産業作業療法学 | 8 | 渡辺明日香 白戸力弥 | 専任 |
| | 地域作業療法学実習 | 15 | | |
| | 地域作業療法学Ⅰ | 15 | 玉珍 大川浩子 金谷匡弘 村上優衣 | 専任 |
| | 地域作業療法学Ⅱ | 8 | 佐藤和彦 | 非常勤講師 |
| 臨床実習 | 見学実習 | 45 | 金谷匡弘 渡辺明日香 | 専任 |
| | 訪問・通所実習 | 45 | 大川浩子 玉珍 村上優衣 | 専任 |
| | 評価実習 | 90 | 金子翔拓 村上優衣 | 専任 |
| | 総合臨床実習Ⅰ | 360 | 金子翔拓 玉珍 | 専任 |
| | 総合臨床実習Ⅱ | 360 | 白戸力弥 金京室 | 専任 |

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| ○ | 養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。 | 3 |
| | 養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。 | 2 |
| | 養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。 | 1 |

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|--|----|
| ○ | シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。 | 4 |
| | シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。 | 3 |
| | シラバスの記載が十分ではない。 | 2 |
| | シラバスが作成されていない。 | 1 |

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|--|----|
| ○ | 養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。 | 4 |
| | 養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。 | 3 |
| | 養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。 | 2 |
| | 養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。 | 1 |

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---------------------------|----|
| ○ | 講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。 | 4 |
| | 講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。 | 3 |
| | 講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。 | 2 |
| | 講義と関連の実習が連動して実施されていない。 | 1 |

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

| 臨床実習の見学又は実践する範囲 | 開講時期 | 関連講義名 | 開講時期 |
|---|------|-------------|------|
| 見学実習 | 1年後期 | 作業療法概論 | 1年前期 |
| | | リハビリテーション概論 | 1年前期 |
| 通所・訪問リハビリテーションの見学 | 2年後期 | 高齢期作業療法治療学 | 2年後期 |
| | | 地域作業療法学Ⅰ | 2年後期 |
| 評価実習 臨床実習指導者の指導・監視の下、 様々な疾患・状態の対象者の対して基 | 3年後期 | 作業療法評価学 | 2年前期 |
| | | 作業療法評価学演習 | 2年前期 |
| | | 作業療法評価学実習Ⅰ | 2年後期 |

| | | | |
|--|------|------------------|------|
| 本的な検査・測定等を適切に実施することを学び、検査測定の意義や重要性を学ぶことを目的とする。 | | 作業療法評価学実習Ⅱ | 3年前期 |
| <p>総合臨床実習Ⅰ</p> <p>評価実習で学んだ問題点の抽出を元に、目標設定、治療プログラムの立案および実施までの一貫した流れを学ぶ</p> <p>総合臨床実習Ⅱ</p> <p>総合臨床実習Ⅰで学んだ目標設定や治療プログラムの立案をもとに治療を実施して対象者の反応や変化を的確に把握し再評価することを学ぶ</p> | 4年前期 | 機能活動代償学Ⅰ | 2年後期 |
| | | 運動器作業療法治療学 | 3年前期 |
| | | 中枢神経障害作業療法治療学 | 3年前期 |
| | | 高次脳機能障害作業療法治療学演習 | 3年前期 |
| | | 身体障害作業療法治療学実習 | 3年前期 |
| | | 内部障害作業療法治療学 | 3年後期 |
| | | 発達障害作業療法治療学演習 | 3年前期 |
| | | 精神障害作業療法治療学演習 | 3年前期 |
| | | 日常生活適応学演習 | 3年前期 |

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| | 養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。 | 3 |
| | 養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。 | 2 |
| ○ | 養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。 | 1 |

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|-------------------------------|----|
| ○ | 適正な臨床実習指導者のもとで実習が実施されている。 | 4 |
| | 適正な教員の監督指導のもとで実習がおおむね実施されている。 | 3 |
| | 適正な教員の監督指導のもとで実習が十分に実施されていない。 | 2 |
| | 適正な教員の監督指導のもとで実習が実施されていない。 | 1 |

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|------|----|
|------|------|----|

| | | |
|---|--------------------------------------|---|
| ○ | 臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。 | 3 |
| | 臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。 | 2 |
| | 臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。 | 1 |

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|-------------------------------|----|
| ○ | 自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。 | 3 |
| | 自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。 | 2 |
| | 自己点検・評価の体制がない。 | 1 |

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

| | |
|--------------|--|
| 自己点検・評価組織名 | 北海道文教大学 人間科学部自己点検・評価委員会 |
| 委員名(委員長) | 横井裕一郎(委員長)、木村浩一、橋田浩、金子翔拓、藤長すが子、加藤裕明、松岡審爾 |
| 組織の開催頻度 | 1年に一度 |
| 組織の取り組み内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。 ・授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。 ・授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。 ・教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 ・学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。 ・成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。 ・学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。 ・教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。 ・学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。 ・学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。 ・適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。 ・ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。 |
| 自己点検・評価結果の公表 | H P で 公 表 (URL : https://www.dobunkyo-dai.ac.jp/outline/pdf/2022/selfinspection_2022_003.pdf) |

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

| 自己評価 | 評価内容 | 判定 |
|------|---|----|
| ○ | シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。 | 3 |
| | シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。 | 2 |
| | シラバス記載内容を改善する仕組みがない。 | 1 |

●基本情報:シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

| | | |
|-------------|-----------|--|
| 該当する 仕組み | 名称 | 教育開発センター室 |
| | 委員構成等 | 学長、副学長、教育開発センター室長、各学部長、各学科長 |
| | 改善の仕組みの実際 | ・月に1度会議を開催している。 ・シラバス作成方法についてのFDセミナーを毎年開催している |

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

- ・本学では自己点検・評価を毎年実施しており、学習環境の整備に努めている。
- ・2017年度に大学基準協会における大学評価を受け、大学基準適合の認定を受けており、2021年度には改善報告書を提出している。
- ・2020年度のリハビリテーション教育評価機構の審査を受け、評価認定施設と認められている。